

野上

アジアの中の日本

——アジア科学者会議の可成性——一つの思考
実践——

1. 中日の科学技術政策

四つの基本方針

- (i) 社会主義建設のための仕事
- (ii) 全面的な計画
- (iii) オートソリテイ主義の拒否、勇敢に考え、
勇敢に発言し、勇敢に作業者を擁護
- (iv) 総路線

この方針は中日の特色、科学の工業化
運動、1959に多くの報告がなされてい
る。

2. 中日科学者の間における環境

- 科学者の平務遂行上の根本的矛盾は無い（科学
技術政策の合理化）
- 高い社会的地位
- 組織活動、専門作業者の充足
口内大衆との接触
このことは explicit にうたわれている
- アメリカに対する封鎖に対する緊迫感、国家的連帯
感
- 工業水準の高低不足に対する研究修研の欠陥、
- 専門家の不足に伴う諸困難、
- 外国との科学交流の不足

中日の環境はソ連と比べると特徴的。ソ連は革命前
からかなり高い科学活動の水準を持ち、革命後
若し科学者と国外へ留学に出した。

3. 日本科学者の場合（中日と比較して）

- 専門研究の良好な条件、科学者の高い水準
- アメリカの中口封鎖の前進基地としての性格
- 科学政策における全面的計画の欠陥
- 強い専門家意識
政治からの中立の尊重
科学の中立性

○ 夏夜の口除帳

口氏からの遊覧

(逆に人類の一人としてという考え方が可能になる)

4. アジア科学者会議の可成性

○ 情勢の正確な把握と口氏へのアピール

○ 科学者独自の立場からのアジア諸国への建設的
ゆ

(i) 専門家の枠を超えて話し合い

(ii) 相互認識——連帯感の育成

科学・科学者はどうあるべきかについて考えてい
るグループと互に理解は可能であろう。

互のなかにいて、互の立場を認識し合うのが第一

客観的情勢について言及することは必ずしも
という立場と、日本も口氏からすれば、科学
者としての立場を全うしてこよう。

切田: 立場として、例えば、米中間の純戦争状態がある
という認識の日本にない。現在は中絶で、それ
が既についているという考え。

湯川: 科学者等の会議の方向、物理学者のやり取り易い
?

い、し今までの^{立場の}至極からみて、そこまで突込んだ
話し合いをするには大きな努力がいる。